資料 1-2

課題提起　概要

高知県は、南国の恵まれた自然環境やその中で育まれた県民の豊かな感性のもと、本県ならではの社会経済状況や教育環境をつくりあげてきました。

しかしながら、本県はそのよさを十分に生かしきれず、少子高齢化の進行や産業活動の低迷が続くなど、厳しい情勢にあるとともに、教育においては、深刻な中学校の学力問題をはじめ、いじめや不登校といった生徒指導上の諸問題など、大きな課題を抱えています。

（1）児童生徒の状況について

高知県では、そうした教育活動の解決を図るために、平成２０年７月に「学力向上・いじめ問題等対策計画」（学ぶ力を育み　心に寄りそう　緊急プラン）を策定し、「学校・学級改革」や「放課後改革」など５つの改革と「体力づくり」に取り組んできました。

その結果、平成２２年度全国学力・学習状況調査において、当該年度は抽出調査として実施されたことで、過去３回の悉皆調査の結果と単純に比較はできないものの、小、中学校ともに改善傾向にあり、特に小学校では、全国平均正答率とほぼ同じ水準まで改善されました。一方、中学校においても全国平均との差は徐々に縮まりましたが、依然として全国水準を下回っている状況にあります。

生徒指導上の諸問題については、平成１９年度の調査結果では暴力行為の発生件数、不登校出現率、中途退学の割合がすべて全国ワースト２位という非常に厳しい状況でしたが、その後の２年間で暴力行為は全国ワースト７位、不登校はワースト８位、中途退学はワースト１１位となり、徐々にではありますが改善されました。しかしながら、依然として厳しい状況が続いています。

本県の児童生徒の体力については、平成２０年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、体力合計点が小学校男子・女子とも全国４７位、中学校男子４５位、女子４６位という大変厳しい状況でしたが、平成２２年度の同調査では、小学校男子・女子とも全国４０位、中学校男子３４位、女子３６位となり、体力合計点の伸び率では、小中学校男女とも全国１位になるなど大きく改善されました。しかしながら、多くの項目で全国平均値を大きく下回っている状況にあります。

以上、こうした取組により、徐々に明るい兆しが見え始めているものの、全体的には、全国と比較してまだまだ厳しい状況にあることは変わっていません。

（2）若者等の県外流出に関して

本県は、全国に約１０年先行して高齢化が進み、年少人口は今後３０年間でほぼ半減する見通しであり、また、生産年齢人口の減少により、地域を支える担い手の確保も一

層厳しくなる見込みとなっています。

平成１５年以降、本県の有効求人倍率は全国との格差が広がり、県外への転出超過も急激に増加しており、また、平成１６年度を境に、新規高卒者の県外就職率が急激に増え、近年は就職者のほぼ２人に１人は県外に就職している状況にあります。

また、本県には、高知女子大学、高知工科大学、高知大学の３つの４年制大学と高知短期大学、高知学園短期大学の２つの短期大学がありますが、県内大学への進学状況は全国に比べて大変低い状況にあります。平成９年の高知工科大学の開学により、県内大学への進学者数の割合（残留率）は増加したものの、平成１４年度以降は男女とも１５～２３％で推移し、４０～４４％で推移している全国平均の半分以下となっています。

こうした状況は、生徒の進路選択の結果でもあり、全国的な景気低迷という要因のほか、本県の脆弱な産業構造に問題があり、進学においては各大学の学部・学科の構成が生徒の進路や社会のニーズに合っているのかという問題のほか、各大学に魅力を感じなかったり、地元大学に進学できないという県内高校生の学力問題なども影響していると考えられます。

（３）子育て家庭の状況について

平成１９年度の本県の県民所得（２，１１４千円）は、全国平均の約７割であり、全国４６位となっています。また、生活保護被保護率は全国３位、離婚率は全国６位、ひとり親世帯数比率は全国４位となっており、いずれも全国平均を大きく上回り、厳しい家庭状況を表しています。

平成１４年に行った家庭教育に関する調査結果においては、「子どものことで、どのような不安や悩みがあるか」という設問に対し、「将来の進路」、「生活態度、習慣、生活など」という答えが上位を占め、また、「子どものことで、困ったり不安に感じたことの解決方法（相談、情報入手先）」という設問では、「配偶者」という答えが一番多く、続いて、「親や身内、友人など育児経験者」という答えが上位を占めました。

また、県が実施している平成２２年度親育ち支援啓発事業における保護者アンケートの分析によって、「相談相手もなく、不安や悩みを抱えて子育てをしている」「子育てについて、誰かに認められたいと思っている」「子どもへの思いがうまく伝わらず、子どもの思いとの間にずれが生じている」といった保護者が比較的多いことが分かっています。

（４）教育に生かせる高知県の強み

県土の森林率は全国第１位の８３．３％であり、桂浜や日本最後の清流として知られる四万十川など風光明媚な自然・景観が多くあります。

年間降水量や日照時間も全国第１位であり、恵まれた自然環境のもと、ナスやニラの出荷量が全国第１位であるなど、この特性を生かした農業が盛んに行われています。また、太平洋に面していることから、全国的に有名なかつお、漁獲量全国第１位のソウダ

ガツオやビンナガマグロなど漁業も盛んです。

食に対する安全・安心意識が高まるとともに、世界的に地球温暖化など環境問題が議論される中、本県の自然環境やそれを生かした産業は、今後の本県の教育に生かせる大きな強みとなる可能性を秘めています。

また、本県は中浜万次郎や坂本龍馬、岩崎弥太郎、板垣退助といった進取の精神に富む偉大な先人も多く輩出しています。数多くの先人の活躍を学ぶことで、郷土に対する誇りと愛情を育み、大きな視野を持って社会の在り方を考え、行動することにもつながります。この他にも、直木賞や芥川賞を受賞した著名な作家や、全国的に有名な漫画家を数多く輩出しており、県民が豊かな感性を持っていることを示しています。

さらに、平成２０年度全国学力・学習状況調査において、「読書が好き」「どちらかと言えば好き」と答えた本県の児童生徒の割合は、小学校も中学校も７０％を超え、全国平均を上回っていますし、全校一斉読書の実施率は９５％を超え、他県と比較しても非常に高い状況にあります。この他にも、教育活動の場において、児童・生徒の詩や作文、書道など熱心に取り組んでおり、子どもの情操を豊かにする活動が本県では盛んです。

（５）高知県の教育の日「志・とさ学びの日」の宣言

昨年１１月に県内全域で開催された「全国生涯学習フォーラム高知大会」は、『まなび愛　つなげ龍馬の「志」』をキャッチフレーズに、３万人を超える方々に参加いただき、盛況のうちに終了しました。

閉会式においては、１１月１日を高知県の教育の日として「志・とさ学びの日」と定める旨の教育宣言を行いました。今後は、すべての県民が教育について理解と関心を深め、高い志を持つ子どもたちを育むとともに、一人ひとりが学ぶ目的や喜びを自覚し、生涯にわたって学び続ける風土を創り上げていくため、この教育の日をきっかけに、教育振興の機運を盛り上げていくこととしています。